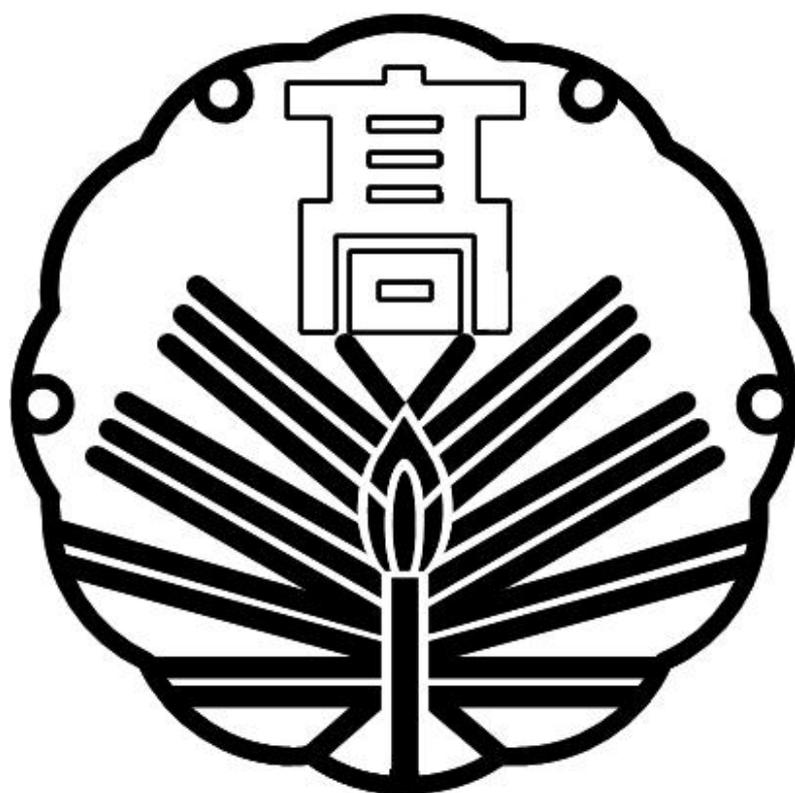


令和元年度 第1学年

シラバス (年間授業計画)



東京都立小松川高等学校

シラバス(年間授業計画)

令和元年 6 月 1 日
東京都立小松川高等学校 発行

〒132-0035 東京都江戸川区平井 1-27-10

TEL 03-3685-1010 (代)

FAX 03- 3636-1073

TEL 03-3658-7181

教務部

教科名	国語	科目名	国語総合	単位数	5単位	対象学年	1年	必履修科目
使用教科書	「国語総合 改訂版（現代文編・古典編）」（大修館書店）							
補助教材	「完全マスター 古典文法」（第一学習社）「完全マスター 古典文法 準拠ノート」（第一学習社）「漢文必携」（桐原書店）「漢文必携チェックノート」（桐原書店）「重要頻出漢字リアルマスター3300」（尚文出版）「新国語便覧」（大修館書店）「ちくま評論入門」「ちくま小説入門」（筑摩書房）「古文単語 330」（いっぴぐず書店）							
授業担当者	石川浩子・佐藤秀光・田村幸司							
I 学習の目標								
現代文ではさまざまな分野の文章を読んで読解力を養い、問題意識を広げて人間・社会・自然に対する認識を深める。古典では基本的な文法・語法・句法を学びながら多くの古典作品を読み、自ら解釈する力を養うと共に、伝統的なものの見方や感じ方に触れ、古典的な教養を深める。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント・指導目標	
1 学期	(前半) 現代文 評論「水の東西」「美しさの発見について」 古文 古文入門「児のそら寝」「絵仏師良秀」 歴史的仮名遣い 動詞の活用 漢文 漢文入門					25	予習・復習の習慣をつける。 現代文 文章を分析的に読む習慣をつける。漢字の小テストを定期的に行う。 古文 歴史的仮名遣いに慣れ、音読ができるようにする。用言の活用を理解する。辞書を引きながら自分で解釈する。 漢文 訓点の仕組みを理解し、訓読に慣れる。書き下し文を書けるようにする。	
	(後半) 現代文 小説「富嶽百景」評論「他者を理解すること」「空気を読む」 古文 徒然草「奥山に猫またといふもの」「ある人、弓射ることを習ふに」枕草子「春はあけぼの」 形容詞・形容動詞の活用 漢文 「漁父之利」「蛇足」						35	
2 学期	(前半) 現代文 評論「知ることとわかること」「自然と人間の関係をとおして考える」小説「鏡」 古文 伊勢物語「芥川」「あづま下り」 助動詞の意味と活用 漢文 古代の史話「先従隗始」「鶏鳴狗盗」 否定・疑問・使役・願望の句法					30		現代文 難解な文章に対する読解力を身につけ、表現された内容を論理的に、的確に把握できるようにする。 古文 古典作品を文学として味わい、昔の人の心に触れる。助動詞の用法と活用について理解する。 漢文 漢文を音読する。史話を読み、ストーリーを的確に把握できるようにする。基本的な句形に慣れる。
	(後半) 現代文 評論「言葉についての新しい認識」「かわいい現象」詩歌「短歌を訳す」短歌と俳句 古文 伊勢物語「筒井筒」土佐日記「門出」 助動詞の意味と活用 漢文 唐代の詩 漢詩のきまり 比較・選択・願望・使役の句法						35	
3 学期	現代文 評論「意味と身体」 小説「羅生門」「友よ」 古文 和歌「和歌という言葉の意味」 平家物語「木曾の最期」 助動詞の意味と活用、助詞の意味、敬語 漢文 文章「雑説」 仮定・限定・比較・選択・抑揚の句形					50		現代文 評論の読解を通して現代社会の様々な問題に対する視野を広げる。小説の読解を通して登場人物の生き方について考える。 古文 様々な時代の文章を読み、時代背景を捉えつつ古文を読む習慣を身につける。文法復習。韻文に慣れ親しむ。 漢文 白文を読む力を身につける。 句形の復習。近体詩のきまりについて理解する。
III 評価の観点・方法								
定期考査の他に小テスト・提出物・発表の実績・授業態度などを加味し、総合的に判断する。 観点①総合的な読解力がどの程度身についているか。 ②漢字書き取り・古典文法・漢文句法などの基礎的な学習内容が身についているか。 ③自ら考え、解釈する姿勢を持っているか。								

教科名	地理歴史	科目名	地理B	単位数	2単位	対象学年	1年	学校必履修科目
使用教科書	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)							
補助教材	新編地理資料(とうほう)							
授業担当者	梅津綾・三堀潔貴							
I 学習の目標								
① 自然環境及び社会環境とかわりから世界の諸地域の特色を理解する。 ② 諸事象の相互関係を空間的な配置や分布から考察することを通して地理的な見方考え方を養う。 ③ 国際社会の諸課題を学習し、我が国と自らの役割について考察する。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント	
1 学 期	(前半) ・球面上の世界(経緯度と対蹠点・時差) ・地図の種類とその利用 ・地理情報の地図化 ・地域調査(調査方法と地形図読図)および集落の形態 ・世界の大地形					1 2	<ul style="list-style-type: none"> 地球を球体として理解させ、世界地図の各図法の特性や時差について考察を深める。 地形図の学習を通して、読図の基本を身につける。 さまざまな規模の地形の分布について理解させ、人々の生活とのかかわりを考察させる。 気候の地域的特色を学習し、植生・土壌との関係を理解させる。 日本の自然の特徴と防災について考察させる。 	
	(後半) ・小地形と特殊な地形 ・気候の成り立ち ・気候区分(ケッペンの気候区分)と植生・土壌 ・日本の自然の特徴と人々の生活							
2 学 期	(前半) ・アングロアメリカの地誌 ・ヨーロッパの地誌 ※この地域をとおして資源と産業、人口、都市、生活文化、民族、日本との関わりについても学ぶ。					1 3	<ul style="list-style-type: none"> 各地の地域性を自然環境、民族・文化、産業などの観点から把握させ、人々の生活の変化についても考察させる。 各地域を学習する中で、環境問題、食料・人口問題、居住問題、民族・領土問題などの諸問題についても考察を深める。 それぞれの地域を扱うことを通して、我が国との結びつきを理解させる。 	
	(後半) ・アフリカの地誌 ・ラテンアメリカの地誌 ※この地域をとおして資源と産業、人口、都市、生活文化、民族、日本との関わりについても学ぶ。							
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> アジア(東、東南、南、西、中央等)の地誌 その他の地域の地誌 ※この地域をとおして資源と産業、人口、都市、生活文化、民族、日本との関わりについても学ぶ。 					2 0		
III 評価の観点・方法								
<p>観点：①地理にかかわる基礎的な知識について理解できたか。 ②地理的事象の空間的な理解や地理的な見方考え方を養うことができたか。</p> <p>評価：定期考査・提出課題および授業に取り組む姿勢等をもとに総合的に評価する。</p>								

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2	対象学年	1 学年	必履修科目
使用教科書	高校学校改訂版現代社会 (第一学習社)							
補助教材	新版最新現代社会資料集 2019(第一学習社)、現代社会ノート(第一学習社)							
授業担当者	安部敬・末吉智典							
I 学習の目標								
人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント	
1 学期	(前半) 現代社会の諸課題を考える ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・情報倫理 ・科学技術の発展と生命倫理 他					1 2	生態系, 地球温暖化, オゾン層破壊 酸性雨, 森林破壊, 砂漠化 持続可能な発展, 南北問題 地球サミット, 化石燃料 人口爆発, 食料問題, 生命倫理など	
	(後半) 日本国憲法と国民生活 ・日本国憲法の成立 ・日本国憲法の三大原理 ・基本的人権の保障 ・人権保障と司法					1 2	国民主権, 平和主義, 基本的人権の保障, 自由権, 平等権社会権, 参政権, 請求権, 三権分立団体自治, 立憲主義, 法の支配, 議院内閣制, 違憲立法審査権, 裁判員制度 など	
2 学期	(前半) 現代の経済と社会福祉 ・市場のしくみ ・政府の役割と財政・租税 ・金融機関のはたらき ・日本経済のあゆみ					1 3	資本主義経済, アダム=スミス マルクス, 社会主義経済、ケインズ, 需要と供給、経済主体、インフレーション、デフレーション、財政の役割、日本銀行の役割、信用創造、労働問題、社会保障、多国籍企業など	
	(後半) ・青年期と自己形成 ・現代社会と青年の生き方 ・国際社会 ・南北問題					1 3	境界人, モラトリアムとその延長 第二の誕生, 防衛機制, 安全保障, 国際連合, 国際法, など	
3 学期	・他者と共に生きる倫理 ・国際経済の動向 ・公害防止と環境保全ともに生きる社会をめざして ・持続可能な社会をめざして					2 0	ソクラテスプラトン, アリストテレス、イエス、ムハンマド、仏陀、経済の民主化、高度経済成長、石油危機、バブル経済、デフレスパイラル、四大公害訴訟、3 R 非正規雇用、ニート、外国人労働者 など	
III 評価の観点・方法								
<p>① 現代社会の基本的問題と人間存在に関わる事柄への関心を持ち、論理的に考察しようとしているか。</p> <p>② 社会的事象は相互に関連し合っていることを理解し、多様な角度から総合的にとらえ、主体的かつ公正に判断する力を深めようとしているか。</p> <p>以上の観点をふまえて、定期考査や提出物・授業態度・出欠などを総合的に判断して評価を行う。</p>								

教科名	数 学	科目名	数 学 I	単位数	2 単位	対象学年	1 年	必履修科目
使用教科書	高等学校 数学 I (数研出版)							
補助教材	チャート式 基礎からの数学 I + A (数研出版) 4プロセス 数学 I + A (数研出版)							
担当者	村松、大西、竹石、田中							
I 学習の目標								
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得・技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容				時間	重点ポイント・指導目標		
1 学 期	(前半) 第1章 数と式 1 節[式の計算] 1. 整式の加法と減法 2. 整式の乗法 3. 因数分解 2 節[実数] 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 3 節[1次不等式] 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式不等式				20	(1) 整式を整理し、加法と減法の計算ができる。 (2) 有理数と小数との関係について理解する。 (3) 平方根に関する計算に習熟し、分母の有理化、2重根号をはずすことができるようにする。 (4) 不等式の意味を理解し、1次不等式を解けるようにする。		
	(後半) 第2章 2次関数 1 節[2次関数とグラフ] 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 2 節[2次関数の値の変化] 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 3 節[2次方程式と2次不等式] 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式					20	(1) 2次関数のグラフをかき、頂点の座標や軸の方程式を求める。 (2) グラフを利用して、2次関数の最大・最小を求める。また、制限された定義域での最大・最小を考え、図形の面積への応用などを考える。 (3) 2次方程式の解の公式を導き2次関数のグラフとx軸との交点の関係を示す。 (4) 2次関数のグラフを利用して、2次不等式の解を調べる。	
2 学 期	(前半) 第1章 4 節[集合と命題] 9. 集合 10. 命題と条件 11. 命題とその逆・裏・対偶 12. 命題と証明 第3章 図形と計量 1 節[三角比] 1. 三角比 2. 三角比の相互関係				30		(1) 命題の逆・裏・対偶の意味を知り、命題の証明に利用する。 (2) 直角三角形の辺の長さの比として三角比を定義する。三角比相互の関係を示す。	
	(後半) 3. 三角比の拡張 2 節[三角形への応用] 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 第4章 データの分析					10	(1) 鈍角の三角比を考える。 (2) 三角形の決定条件を定式化したものとして、正弦定理・余弦定理を導く。 (3) 三角形の面積を計算できるようにする。 (4) 空間図形においても、三角比を利用することができるようにする。 (5) あらゆる用語の定義を理解し、それぞれを正しく求めることができるようにする。	
III 評価の観点・方法								
(1) 学習内容の理解度、および努力 (2) 学習に対する意欲、授業態度 (3) 課題等の提出状況								

教科名	数 学	科目名	数 学 II	単位数	1 単位	対象学年	1 年	必履修科目
使用教科書	高等学校 数学II (数研出版)							
補助教材	チャート式 基礎からの数学II+B (数研出版) 4プロセス 数学II+B (数研出版)							
担当者	村松、大西、竹石、田中							
I 学習の目標								
数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容				時間	重点ポイント		
1 学 期	(数学 I)							
	(数学 I)							
2 学 期	(数学 I)							
	(数学 I)							
3 学 期	第2章：複素数と方程式 第1節[複素数と2次方程式の解] 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 第2節[高次方程式] 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式				25	(1) 複素数の範囲での計算をする。 (2) 2次方程式を複素数の範囲で解く。 (3) 解と係数の関係を理解し、つかえるようにする。 (4) 剰余の定理と因数分解を利用し、因数分解などができる。 (5) 高次方程式を解けるようにする。		
III 評価の観点・方法								
(1) 学習内容の理解度、および努力 (2) 学習に対する意欲、授業態度 (3) 課題等の提出状況								

教科名	数 学	科目名	数 学 A	単位数	2 単位	対象学年	1 年	学校必履修科目
使用教科書	高等学校 数学A (数研出版)							
補助教材	チャート式 基礎からの数学 I + A (数研出版) 4プロセス 数学 I + A (数研出版)							
担当者	村松、安藤、竹石、長濱、中野							
I 学習の目標								
場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育て、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容				時 間	重点ポイント・指導目標		
1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ				1 2	(1)和の法則、積の法則を理解させる。 (2)場合の数を求めさせ、順列・組合せの考え方に繋がる法則性を見出させる。 (3)順列、円順列、重複順列について、その意味の理解、計算方法を理解させる。 (4)組合せについて学び、理解させる。		
	5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件つき確率					1 2	(1)二項定理の内容を理解し、それを応用できるようにする。 (2)根元事象・試行・事象の意味を理解させ、確率の定義を導く。 (3)独立な試行・反復試行の確率が求められるようにする。	
2 学 期	第2章 平面図形 第1節 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 第2節 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体				1 3	(1)三角形の重心・外心・内心と垂心の性質について理解する。 (2)中学校で学習したことを更に発展させ、円についての性質を多方面から学習する。 (3)円の接線に関して、接線と弦のなす角の性質を学ぶ。 (4)方べきの定理の理解と2つの円の位置関係を理解させる。		
	第3章 整数の性質 第1節 1. 約数と倍数 2. 最大公約数・最小公倍数 3. 整数の割り算と商・余り					1 3	(1)様々な整数問題に、素因数分解を利用することができるようにする。 (2)全ての整数を文字で表すことができる。 (3)除法の余りを利用して、整数の性質を証明することができるようにする。	
3 学 期	第2節 4. ユークリッドの互除法 5. 1次不定方程式 6. 分数と小数 7. n進法				2 0	(1)互除法を用いて問題解決が図れる。 (2)様々な1次不定方程式を解くことができるようにする。 (3)n進法の変換ができるようにする。		
III 評価の観点・方法								
(1)学習内容の理解度、および努力 (2)学習に対する意欲、授業態度 (3)課題等の提出状況								

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2単位	対象学年	1年	必履修科目
使用教科書	数研出版 改訂版 化学基礎							
補助教材	第一学習社 セミナー化学基礎+化学 実教出版 四訂板 サイエンスビュー化学総合資料							
授業担当者	榊原 毅 筒井 広明							
化学における基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的に探究する能力を身につけ、また、化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント・指導目標	
1 学 期	(前半) 化学と人間生活 物質の分類(混合物とその分離法)、元素・同素体 状態変化と熱運動(拡散) 原子の構造(電子配置・同位体) 元素と周期表					1 2	各用語の理解 状態変化の要因 電子と化学反応の関係 元素記号と原子番号・質量数・価数・原子数の表記法 周期表の意味	
	(後半) 化学結合と結晶・結晶格子 原子量と物質量の概念 物質計算 1モルの質量・気体の体積との関係 化学反応式の書き方 化学反応式の量的関係の計算						1 2	各結合方法とその結晶 原子量、物質量(モル)の考え方 1モルの値(個数、質量、体積) 物質計算に慣れる 化学反応式の係数と量的関係 濃度の意味と求め方 電離と酸塩基の強弱 等
2 学 期	(前半) 濃度の求め方 酸と塩基(酸と塩基の定義、電離) 酸と塩基(水素イオン濃度とpH) 酸と塩基(中和反応と塩の加水分解)					1 3		濃度の定義と様々な求め方 酸と塩基の定義 pHの考え方、求め方 中和反応の定義 塩の加水分解
	(後半) 酸と塩基(中和の量的関係) 酸と塩基(中和滴定) 酸と塩基(滴定曲線) 酸化還元(定義、酸化数) 酸化還元(酸化剤・還元剤)						1 3	中和反応の量的関係 滴定曲線とpH変化 中和滴定の実験器具、操作方法 酸化還元と電子の授受 酸化数と酸化還元 主な酸化剤、還元剤
3 学 期	酸化還元(酸化剤と還元剤の反応式) 酸化還元(金属のイオン化傾向) 酸化還元(電池) 酸化還元(金属の精錬) 酸化還元(電気分解)					2 0		電子の授受と酸化還元反応 金属の反応性 電池の原理と主な電池の反応 身近な金属の精錬方法 電気分解の原理と各電極での反応
III 評価の観点・方法								
定期考査を基本とするが、授業態度・出欠状況および実験・実習・報告書の取り組み状況、提出物の状況、小テストの得点なども評価の観点とする。								

都立小松川高等学校 令和元年度 理科 生物基礎 年間授業計画

教科： 理科 科目： 生物基礎 単位数： 2単位

対象学年組： 第1学年1組～8組

教科担当者： (1組～5組：冬木隆 6組～8組：山沖和之)

使用教科書：改訂版 生物基礎 (数研出版)

使用教材： 七訂版 スクエア最新図説生物 (第一学習社) 改訂 ニューステップアップ生物基礎 (東京書籍)

	指導内容	生物基礎の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	1 生物と遺伝子 ①生物の特徴 生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝	生物が細胞を基本としてなりたっていることを理解させる。あわせて顕微鏡やマイクロメーターの使用方法をマスターさせ、細胞観察実験をスムーズに行うようにさせる。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	8
5月	1 生物と遺伝子 ①生物の特徴 生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝	光合成と呼吸のしくみを理解させる。DNAが遺伝情報を担っていることをあらためて確認させ、その構造とはたらきについて理解させる。細胞分裂の際に、どのように遺伝情報が分配されるのか確認する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	8
6月	1 生物と遺伝子 ①生物の特徴 光合成と呼吸	光合成と呼吸のしくみを理解させる。DNAが遺伝情報を担っていることをあらためて確認させ、その構造とはたらきについて理解させる。細胞分裂の際に、どのように遺伝情報が分配されるのか確認する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	10
7月	②遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	光合成と呼吸のしくみを理解させる。DNAが遺伝情報を担っていることをあらためて確認させ、その構造とはたらきについて理解させる。細胞分裂の際に、どのように遺伝情報が分配されるのか確認する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	8
8月				0
9月	②遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	光合成と呼吸のしくみを理解させる。DNAが遺伝情報を担っていることをあらためて確認させ、その構造とはたらきについて理解させる。細胞分裂の際に、どのように遺伝情報が分配されるのか確認する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	8
10月	2 生物の体内環境の維持 ③生物の体内環境 体液という体内環境 腎臓と肝臓 神経とホルモンによる調節 免疫	生命の体内環境の保持(恒常性)を 体液・浸透圧調節・肝臓のはたらき・自律神経系・ホルモン・免疫など、さまざまな角度から考え、すべてからだの調節に関係していることを理解させる。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	8
11月	2 生物の体内環境の維持 ③生物の体内環境 体液という体内環境 腎臓と肝臓 神経とホルモンによる調節 免疫	生命の体内環境の保持(恒常性)を 体液・浸透圧調節・肝臓のはたらき・自律神経系・ホルモン・免疫など、さまざまな角度から考え、すべてからだの調節に関係していることを理解させる。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	8
12月	2 生物の体内環境の維持 ③生物の体内環境 体液という体内環境 腎臓と肝臓 神経とホルモンによる調節 免疫	生命の体内環境の保持(恒常性)を 体液・浸透圧調節・肝臓のはたらき・自律神経系・ホルモン・免疫など、さまざまな角度から考え、すべてからだの調節に関係していることを理解させる。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	6
1月	3 生物の多様性と生態系 ④植生の多様性の分布 さまざまな植生 植生の遷移 気候とバイオーム	植生の成り立を知る上で重要な植物群落の遷移の十分な理解を図る。また、1学年の地理で学習した植生について生物学からの角度から説明し、目的を達成する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	6
2月	3 生物の多様性と生態系 ⑤生態系とその保全 生態系 物質循環とエネルギーの流れ 生態系バランス 人間関係と生態系の保全	生態系のしくみを十分理解させるとともに、生態系内でのエネルギーの流れやバランスについて学習する。それを応用してわれわれ人間活動と生態系についての関係についても学習する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	6
3月	3 生物の多様性と生態系 ⑤生態系とその保全 生態系 物質循環とエネルギーの流れ 生態系バランス 人間関係と生態系の保全	生態系のしくみを十分理解させるとともに、生態系内でのエネルギーの流れやバランスについて学習する。それを応用してわれわれ人間活動と生態系についての関係についても学習する。	定期考査を基本とするが、実験・実習を数多く実施することによって、単に暗記ではなく、科学的な思考が身に付いたかどうかを評価の観点とする。実験に際しての報告書の書き方などを参考にそれぞれの目標への達成度を測る。	2

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2単位	対象学年	1年	必履修科目
使用教科書	現代高等 保健体育 (大修館)							
補助教材								
担当者	田代 ・ 吉川 ・ 柴山 ・ 桂嶋 ・ 濱中 ・ 笹島 ・ 宗村							
I 学習の目標								
①各種の運動の合理的な実践を通して、運動機能を高め、強健な心身の発達を促す。 ②授業を通して集団の中で、規律ある態度やマナーを養い、健康や安全について十分な配慮ができるようにする。 ③自ら進んで運動できる能力を養う。								
II 学習の留意点								
①自己の健康や体力に応じた課題をもって運動を行う。 ②運動に対する関心や意欲を高め、集団の中で協力して運動ができるようにする。 ③男女共修の柔道、剣道、ダンスにおいて積極的に授業に取り組めるようにする。								
III 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント・指導目標	
1学期	①陸上 (短距離走、走り幅跳び、やり投げ、ハードル走三段跳び) ②器械運動 (体力を高める運動、マット、跳び箱) ③スポーツテスト ④男女：柔道、剣道、ダンス ⑤水泳 (クロール)					19	・基礎技能 ・基本動作 ・個人技能 ・対人技能 ・泳法 (2種目)	
2学期	①陸上 (短距離走、走り幅跳び、やり投げ、ハードル走三段跳び) ②器械運動 (体力を高める運動、マット、跳び箱) ③男女：柔道、剣道、ダンス ④水泳 (背泳)					22	・基礎技能 ・基本動作 ・個人技能 ・対人技能 ・泳法 (2種目)	
3学期	①陸上 (持久走《3000m走》、1500m、800m走) ②なわとび					12	・基礎技能 ・基本動作 ・個人技能 ・競技会運営	
IV 評価の観点・方法								
①実技 (技能、課題到達度) ②行動、態度、社会性、習慣 ③興味、関心、意欲 ③ 席状況 (欠席、見学)								

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位	対象学年	1年	必履修科目	
使用教科書	現代高等 保健体育 (大修館)								
補助教材									
担当者	濱中 ・ 笹島 ・ 桂嶋								
I 学習の目標									
<p>①個人及び社会生活における、健康について理解を深める。</p> <p>②生涯を通じて自ら進んで健康管理を行い、改善していくための資質や能力を育てる。</p> <p>③学校生活や地域での身近な問題を取り上げ、実生活に役立てる。</p> <p>④他教科との関連をはかる。</p>									
II 学習内容									
	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント・指導目標		
1 学 期	①現代社会と健康 ・健康のすがた、とらえ方 ・健康と意志決定・行動選択 ・生活習慣病とその予防 ・食事、運動、休養と健康					10	・健康の成立条件の理解 ・生活習慣と食事、運動、休養等、健康の関連 (ライフスタイル) ・自己の意志決定、行動選択の必要性の理解		
2 学 期	①現代社会と健康 ・喫煙、飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・現代の感染症 ・性感染症・エイズとその予防					13	・喫煙、飲酒等の健康関連 ・薬物乱用についての理解 ・感染症を理解しその予防を知る ・エイズを含む性感染症を理解し、予防について知る		
3 学 期	①現代社会と健康 ・欲求と適応機制 ・心身相関の相関とストレス ・心の健康と自己実現					10	・ストレスについての理解 ・心身の相関についての理解と心の健康について ・青年期の自己形成と精神の健康についての理解		
III 評価の観点・方法									
<p>①健康に関する意志決定や行動選択が理解できたか。</p> <p>②健康課題への対応と、健康の保持増進について、個人や社会の関わりの中で総合的に理解できたか。</p> <p>③授業態度、ノートなどの提出、出欠席</p> <p>④定期考査(3回)</p> <p>④定期考査では一学期は70%、二学期は80%、三学期は90%の共通問題を実施</p>									

教科名	芸術	科目名	音楽 I	単位数	2 単位	対象学年	1 年	必履修選択科目
使用教科書	「MOUSA 1」(教育芸術社)							
補助教材								
授業担当者	多久島 一美							
I 学習の目標								
音楽を愛好する心情を育て、音楽を共有する喜びを味わう。 <歌唱> 様々な歌唱形態による楽曲を扱い歌唱力を向上させる。自己の歌唱に対する課題を認識し、パート練習や全体練習に取り組み表現させる。 <器楽> 楽典の知識を習得し、基礎的技能を高め、協調性を高めながらアンサンブルを行い表現させる。 <鑑賞> 様々な音楽形態を知り、特性をとらえながら基礎的知識を習得し表現にいかす。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント	
1 学期	(前半) 歌唱(発声、カノン、校歌斉唱、英語 POPS 曲、J-POP) 器楽(ハンドベルの歴史、扱い、合奏) 鑑賞(表現にいかす楽曲鑑賞 カーペンターズ)					2 4	<ul style="list-style-type: none"> 正しい身体の使い方や響きのある歌声を作る。正確な音程やリズムで独唱する。 日本語のみならず、英語やイタリア語の歌曲の背景を理解しながら歌唱表現する。 ハンドベル演奏で自己のパートを理解しグループ練習をとおして楽曲を作り上げる。 発表と相互評価で高めあう。 	
	(後半) 歌唱(イタリア民謡の原語歌唱) 器楽(ハンドベル合奏、発表会、相互評価) 鑑賞(表現にいかす楽曲鑑賞 三大テノール)							
2 学期	(前半) 歌唱(発声、カノン、合唱祭課題曲 校歌混声四部合唱) 器楽(ギターの仕組み、重奏、発表会、相互評価) 鑑賞(表現にいかす楽曲鑑賞 クラシックギター演奏)					2 6	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽合奏で読譜力を向上させる。 ギターの構造を知りアポヤンド奏法で重奏する。リズム創作を加えたアンサンブルを行う。 発表と相互評価で高めあう。 楽曲の流れや声部の役割を理解しながらハーモニーを作り、バランスを整え歌声を調和させる。 パート、2パート、全体練習で合唱表現を追求し音楽を共有する喜びを味わう。 	
	(後半) 歌唱(発声、カデンツ、カノン、合唱祭自由曲 混声四部合奏) 楽典(混声四部合唱曲 楽譜上の音楽用語の理解)							
3 学期	器楽(ピアノの基礎奏法、連弾、発表会、相互評価) 楽典(ピアノ楽譜 大譜表と鍵盤との対応)					2 0	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤楽器の仕組みや奏法を学び、二人で互いの音を聴き合い、楽曲を仕上げる。鍵盤楽器の過去の経験に対応した楽曲に取り組み、一年間のまとめとして発表会を行い相互評価する。 	
III 評価の観点・方法								
<観点> ・様々な様式の音楽に興味・関心をもち、積極的にその良さを感じ取ろうとしているか。 ・歌唱、器楽表現、鑑賞に関する基礎的な知識・技能が高められたか。 ・仲間とともに音楽を共有する基本的姿勢を学び、喜びを味わい楽曲発表で達成感を持つことができたか。 ・コミュニケーションをとりながらグループ活動ができたか。 <方法> 授業の取り組み、提出物、出席状況、器楽発表(ハンドベル、ギター、ピアノ連弾)、歌唱テスト、筆記テストを総合して判断する。								

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2 単位	対象学年	1 年	必修選択科目
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術 1							
補助教材	鉛筆、アクリル絵の具セット、スケッチブック、ケント紙、タンブラー、色紙、七宝材料等							
担当者	神田 哲雄							
I 学習の目標								
美術活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を育てる。表現の技能を身に付け、美しく表現する能力を育む。鑑賞の能力を養い、美術文化に対する関心を高める。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント	
1 学期	<p>オリエンテーション 教科書の作品について鑑賞し、話し合う。</p> <p>鉛筆デッサン ・白いモチーフの光の状態を意識して、立体表現する。</p> <p>平面構成 ・形の美しさや、配色を工夫する。 ・グラデーションを利用した平面構成を制作する。</p> <p>セル画 ・アニメーションの方法を知り、制作する。</p>					24	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術」をどう捉えるか ・年間授業計画と授業の流れ ・美術作品の鑑賞と理解 ・毎時間のスケッチ ・光を意識した立体表現 ・鉛筆の使い方 ・色彩の基本と混色 ・アクリル絵の具の使用法 ・アニメーションとセル画の理解 ・セル画の正しい描画方法 	
2 学期	<p>ガラスリッツェン ・ガラスの工芸技法を学び、表現する。</p> <p>静物写生 ・細部をよく観察して表現する。</p> <p>風景画 ・校内の風景を写生する。</p>					26	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス加工技術の習得 ・日本等のガラス工芸の理解 ・さじペンと水彩技法の理解 ・細密描写の習得 ・大きな空間の意識と表現 ・道具材料の適切な使用 	
3 学期	<p>日本画 ・日本画の歴史と技法を学び、描画する。</p> <p>七宝焼き ・七宝焼きの技法を知り、制作する。</p>					20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画表現技法の理解と応用 ・名画の鑑賞と発想の工夫 ・七宝工芸の紹介と歴史 ・七宝の加工技術の習得 	
III 評価の観点・方法								
<p>作品、授業態度などを加味して評価する。 自主的な作業ができるよう説明を受け、疑問点は質問し、積極的に作業を行っているか。個性ある表現方法を探る努力をしているか。作品鑑賞を行い他者の表現方法から自己の可能性をひき出すことができたか。 詳しい作品評価の観点については課題ごとに授業内で説明を行う。 授業態度（制作に臨む姿勢・出席状況・作品提出状況等）を重視する。</p>								

教科名	芸術科	科目名	書道 I	単位数	2	対象学年	1 年	必履修選択科目
使用教科書	書 I 光村図書							
補助教材	新版応用ペン習字 教育図書							
授業担当者	佐藤 典子							
I 学習の目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校までに培った書写能力をもとに書道における基礎・基本的な知識を身に付けると共に、生涯を通して書を愛好する心情を育成する。 ・ 書道の諸活動を通し、感受し、思考し、表現をする過程の中で、自ら学ぶ力を養う。 								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント	
1 学期	(前半) ○導入「書写から書道へ」 ○硬筆の学習 ○用具・用材の基礎的な知識と使用法 ○導入「書体」について					1 2	書写との相違点を考え、書道で学ぶ内容を理解する。 筆記用具を正しく使用し、整った文字を用途に応じて筆写することが出来る。 工芸的な書の美について理解する。	
	(後半) ○漢字の書の学習 字形、用具・用材、配置による表現の工夫 初唐の三大家中心に漢字の書の学習(楷書) 創作 文化祭作品					1 2	用具・用材について正しく理解し、表現につなげる。 落款印も含め作品性を考える。	
2 学期	(前半) ○表現について(文化祭展示) ○漢字の書の学習(行書) ①中国の書「蘭亭序」中心に 楷書の古典の鑑賞と臨書より 篆書「篆刻」					1 4	書風の違いを理解する。 毛筆の特性を理解し、書風の違いを確認する。 篆書から自分の名前を刻す。	
	(後半) ○漢字の書の学習(行書) ②日本の書 行書の古典の鑑賞と臨書「和とじ」 ○漢字の書の学習(まとめ) 漢字の書の古典の臨書作品制作「硬筆の学習」含む (日本高等学校書道コンクール出品) 実用書へ					1 4	行書の特徴と書風の違いや字形の変化を理解する。 自分に合った古典を選択し、書風を理解した上で、 作品として仕上げる。	
3 学期	○仮名の書の学習 かるた作り等古典「蓬莱切」「高野切三種」へ 校外展出品 ○漢字仮名交じりの書の学習 ○自ら課題を設定しこれまで学んできたことを活かし、創作し、表現の工夫をした作品作りをする					2 0	ちらしや連綿など古典表現の特徴を生かす。 漢字と仮名を調和して書くことが出来る。 自己の表現意図にあった、書風や構成を考えて作品を制作する。	
III 評価の観点・方法								
提出課題の客観的な完成度だけでなく、毎時の学習目標を生徒に把握させ、個々の達成度・上達度を考慮した上で、評価する。又、美術館、博物館等での鑑賞レポート、授業内の定期試験をもって評価の一部とする。								

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション 英語 I	単位数	4 単位	対象 学年	1 年	必履修科目
使用教科書	PRO-VISION English Communication I NEW EDITION (桐原書店)							
補助教材	PRO-VISION English Communication I Workbook、改訂版 Listening Laboratory Standard B、 アップリフト 英語長文読解、必携英単語 LEAP							
授業担当者	石橋・諏訪・中田・Michael Ferris							
I 学習の目標								
<p>難しめの英語を精読することにより、正確な読解の技術を身につける。様々な分野の英文を多読することにより、すばやく概要をつかむ能力を身につける。言いたいことを表現するのに必要な基礎的な語句を習熟する。聞き取りの練習を通じて、話し手の意図を正確に理解できる能力を養成する。</p>								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容			時間	重点ポイント・指導目標			
1 学 期	(前半) LESSON 1 ・単純形と進行形 ・未来表現 ・動詞 (+A) +wh 節 / whether 節 LESSON 2 ・現在完了形 ・過去完了形 ・現在完了進行形			24	L. 1 iPS 細胞を作製した山中伸弥博士の半生と、夢を追い求めるための座右の銘を伝える。興味・関心と適性を生かし、自らの進むべき道を開拓し、努力する人物を紹介する。 L. 2 世界に広がった日本のお弁当文化を紹介する。日本の伝統文化のもつ可能性を考え、他国の文化に対する考え方や感じ方を深める。 ・予習・復習の習慣、辞書を引く習慣を身につける。 ・正しい音読の方法を学ぶと同時に、英文の構造を正確に掴む訓練をする。 ・新出語句・文法・構文事項を習得する。			
	(後半) LESSON 3 ・助動詞 ・疑問詞 + to do ・名詞 + 主語 + 動詞 LESSON 4 ・受動態 ・さまざまな受動態 ・関係代名詞 what			24	L. 3 女性マラソンランナーの先駆者の一人であるキャサリン・スウィツァー氏の経験を通じ、男女の平等を重んじ、より良い社会の実現のために主体的に社会にかかわることの重要性を伝える。 L. 4 ビーバーが生態系において果たす重要な役割について学習し、環境保全について考える。 ・辞書の使用に慣れる。 ・英文を、意味的なまとまりごとに、前から読んで理解する習慣をつける。 ・新出語句・文法・構文事項を習得する。			
2 学 期	(前半) LESSON 5 ・不定詞 (to do) ・形式目的語 it ・動詞 + A + to do LESSON 6 ・使役の構文 ・動名詞 doing ・さまざまな動名詞			26	L. 5 チョコレートにまつわる文化や歴史を学習し、広範な知識と多様な物の見方を身に付ける。 L. 6 ベネズエラの音楽教育システム「エル・システム」について紹介する。自主及び自律の精神を養うこと、また、社会全体が負う課題と個人が果たすべき責任について考える。 ・長く複雑な文を的確に文節に分け、解釈できるようにする。 ・内容のある長い文を、パラグラフごとの関連、全体の構成を考えながら読む。 ・新出語句・文法・構文事項を習得する。			
	(後半) LESSON 7 ・分詞構文 ・分詞の形容詞的用法 ・知覚動詞 + 名詞 + do / doing LESSON 8 ・関係代名詞 ・関係副詞 ・比較の表現①			26	L. 7 植物と動物の間及び植物同士の間で行われているコミュニケーションについての記述を通じ、自然の驚異を学習し、生命の尊さ、環境の保全の重要性を考える。 L. 8 マララ・ユスフザイ氏の国連での演説を読む。より良い社会の実現のために、社会全体が負う課題と個人が果たすべき責任について考える。 ・既習の文法・構文の知識を英作文にも活用する。 ・新出語句・文法・構文事項を習得する。			
3 学 期	LESSON 9 ・関係代名詞の非制限用法 ・It is ~ that [who] ... ・比較の表現② LESSON 10 ・仮定法過去 ・仮定法過去完了 ・同格の that			40	L. 9 雪の結晶が生成されるメカニズムなどを学習する。興味・関心を喚起し、真理を求める態度を養う。 L. 10 科学的な測定を使って、5,300 年前に亡くなった男のミイラから、有史以前の人類の生活を探る。 興味・関心を喚起し、真理を求める態度を養う。 ・まとまった量の論説的な文と、物語の文を読む。必要に応じ、周辺知識を補う資料を提供し、英文の理解を深める。 ・新出語句・文法・構文事項を習得する。			
III 評価の観点・方法								
定期考査、小テスト、予習状況、授業中の活動状況、課題の提出状況を総合的に判断し評価する。 定期考査は 70 分、リスニングとやや難易度の高い初見の英文を含む。								

教科名	外国語	科目名	英語表現 I	単位数	2 単位	対象学年	1 年	学校必修科目
使用教科書	DUALSCOPE English Expression (数研出版)							
補助教材	DUALSCOPE English Expression ワークブック (数研出版) DUALSCOPE 総合英語 (数研出版)							
授業担当者	中田、石橋、諏訪、杉山、平野、倉松							
I 学習の目標								
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。各文法項目の学習到達度を確認し、暗誦や復習テスト等で、英語発信力を身につける。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容					時間	重点ポイント・指導目標	
1 学 期	Lesson 1 Sentence Patterns Lesson 2 Tenses 文の種類 / 文型 / 品詞 / 時制					7	<ul style="list-style-type: none"> 品詞の区別ができる。 自動詞・他動詞の区別ができる。 5 文型が理解できる。 	
	Lesson 3 Modals Lesson 4 Voices 助動詞 / 受動態					11	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな助動詞が使われている文の意味が正確に理解できる。 受け身と、受け身を用いた慣用表現が正確に理解できる。 	
2 学 期	Lesson 5 Infinitives Lesson 6 Gerunds 不定詞 / 動名詞					10	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の用法を理解することができる。 動名詞を使った文を正しく理解することができる。 	
	Lesson 7 Participles Lesson 8 Comparisons 分詞 / 比較					10	<ul style="list-style-type: none"> 分詞（構文）の働きを理解できる。 比較表現を正しく使うことができる。 	
3 学 期	Lesson 9 Relatives Lesson 10 Subjunctives 関係詞 / 仮定法					12	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞（副詞）を使った文を正確に理解できる。 関係詞の制限用法と非制限用法の違いを理解できる。 仮定法過去と仮定法過去完了の違いを正確に理解できる。 	
III 評価の観点・方法								
方法：定期考査、小テスト、予習状況、授業への取り組み、課題の提出状況を総合的に判断し評価する。								

教科名	情報	科目名	社会と情報	単位数	2	対象 学年	1年	必履修科目
使用 教科書	日本文教出版 新・社会と情報							
補助 教材	数研出版 5訂版これだけ！著作権と情報倫理							
担当者	矢作賢一、井上栄治							
I 学習の目標								
①情報の科学的な理解を深め、②情報活用能力を養い、③情報化社会に参画する態度を養う。また、将来、必要になるだろうビジネススキルを修得させる。								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容			時間	重点ポイント・指導目標			
1 学 期	(前半) ・ガイダンス ・コンピュータ史・インターネット史 ・インターネットの仕組み ・検索方法の向上			12	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ室の利用方法の習得 ・コンピュータ利用の校内ルールの習得 ・インターネットの仕組みの理解 ・インターネット検索の実習 			
	(後半) ・著作権 ・個人情報保護 ・違法行為犯罪行為 ・HTML実習			12	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭などで著作権侵害をさせない知識の習得 ・個人情報の流出、違法行為・犯罪行為などから、身を守るための知識の習得 ・タグの使い方の理解、Web ページ作成（基礎） 			
2 学 期	(前半) ・表計算ソフト実習 ・関数・グラフ実習 ・プレゼン実習 ・実験報告書の書き方			13	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトの基本的な使用方法の習得、関数やグラフ描画の習得 ・プレゼンテーション能力の向上 ・ビジネススキルの習得 			
	(後半) ・コンピュータの仕組み ・アナログとデジタルの違いと特徴 ・デジタル化の仕組み ・ディスカッション実習			13	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタル、2進数の仕組みの理解 ・アルゴリズムの向上のための演習 ・ディベート、ディスカッション、コミュニケーション能力の向上 			
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化とシミュレーション実習 ・HP作成実習 ・プログラミング実習 			20	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング技術の習得 ・VBAによるマクロ機能、JAVA Script、他 ・ビジネススキルの習得 ・Web ページの作成（応用） 			
III 評価の観点・方法								
<p>観点：「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「興味・関心・意欲・態度、学びに向かう人間性」の3観点で評価を行う。</p> <p>方法：「意欲・態度」「小テスト」「実習課題」「学期末考査（授業内）」「必須課題」を総合的に判断して、評価を行う。</p>								

令和元年度 年間授業計画

東京都立小松川高等学校

教科名	総合的な探究の時間	科目名	総合的な探究の時間	単位数	1 単位	対象学年	1 年	必履修科目
使用教科書								
補助教材	課題研究メソッド—よりよい探究活動のために— (啓林館)							
授業担当者	村松・石川・石橋・平川・中田・江下・佐藤・榊原							
I 学習の目標								
II 学習内容								
学期	学習事項・学習内容				時間	重点ポイント		
1 学期	探究ガイダンス				6			
					6			
2 学期	職業人インタビュー				6			
	国際理解探究				6			
3 学期	理数探究				11			
III 評価の観点・方法								
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対してどれだけ意欲的に、集中して取り組んでいるか。 ・授業態度・提出物・発表 								